

# 腎臓に2種類のアミロイド蛋白沈着が みられたモルモットの1例



【はじめに】実験動物としてよく知られているモルモットには自然発生性のアミロイド症の報告はない。当研究室では、11例のアミロイド症の経験があるが、今回、1匹の動物の腎臓に2種類のアミロイド蛋白の沈着するという非常に稀な症例に遭遇したので報告する。

【症例】 モルモット、雌、約7歳齢

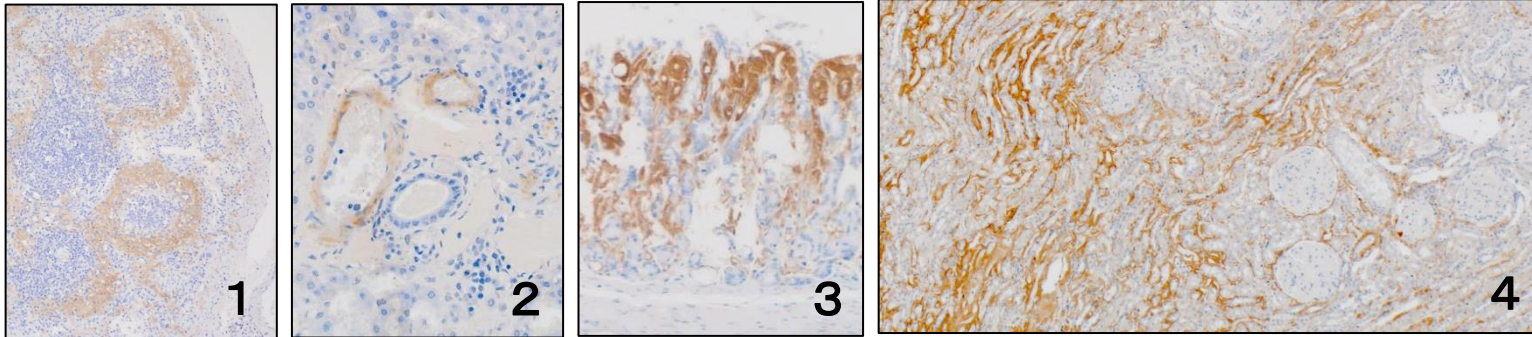
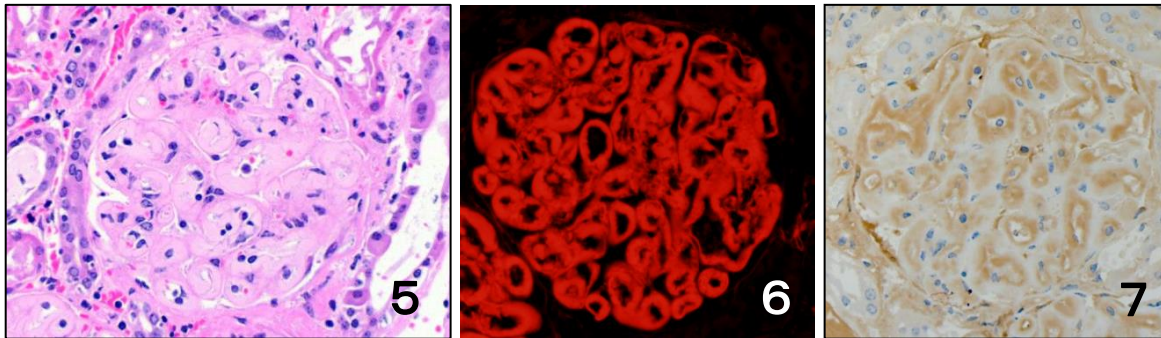


図1脾臓、図2肝臓、図3腸、図4腎臓。いずれもAAアミロイドは茶色。腎臓糸球体のみAA陰性。図5糸球体のHE染色、図6コンゴレッド染色、図7κ Light chainの免疫染色。  
★糸球体のアミロイドはALの可能性ある。



【結論】全身性AAアミロイド症と限局性AL糸球体アミロイド症と診断され、本邦初の症例。

牧野祥之<sup>1)</sup>、亀谷富由樹<sup>2)</sup>、高橋映里佳<sup>1)</sup>、菅原豪<sup>3)</sup>、宇根有美<sup>1)</sup>

1) 麻布大学獣医学部病理学研究室, 2) 公益財団法人東京都医学総合研究所 認知症高次脳機能分析部門, 3) 麻布大学生物科学総合研究所研究室

腎臓のアミロイドの質量分析結果

